

# 道徳授業地区公開講座3年生資料

## 1. 3年生の実態

低学年から中学年になり、学校生活を中心として、友達同士の交流が活発になるとともに、活動範囲も広がってきています。様々な人との関わりが増えていく中で、相手の気持ちを察したり、相手の気持ちをより深く理解したりすることができるようになってきています。一方、ともすると他の人の考え方や感じ方が自分の考え方や感じ方と同じであると思込みがちになる時期でもあります。そこで、相手の置かれている状況、困っていること、悲しい気持ちでいること等、自分のこととして想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自らすすんで行いたいという心情を育てていきたいと思います。

## 2. 授業について

### (1) 主題名「親切の広がり【親切・思いやり】」

### (2) 教材名「親切の旅」

東京に行く電車に乗った友ちゃん。席に座っていると3人組のおじいさんとおばあさんが乗ってきます。友ちゃんは勇気を出して、席を譲ります。すると、周りにいた大人たちも席を譲り始めます。その結果、結局、席を譲ることのできなかつた友ちゃんは少しがっかりします。しかし、お母さんの「友ちゃんが親切にしたから、みんなも親切にできたんだよ。」という言葉に、幸せな気持ちでいっぱいになるという教材です。席を巡って、葛藤する友ちゃんの心情について、自分事として捉え、された方も、した方も清々しい気持ちになる親切な行為について考えていきます。

### (3) ねらい

友ちゃんの心情に共感し、話し合うことを通して、誰かの親切が巡り巡ってみんなに広がる素晴らしさについて考え、すすんで親切にしようという道徳的心情を育む。

### (4) 期待する児童の姿

- ・友ちゃんの揺れ動く心情について、友ちゃんの気持ちに寄り添いながら考え、意見交流をする。
- ・親切とは、「褒められたい。」「善いことをしたい。」という自分の気持ちではなく、相手の身になって考え、その人のために何かをすることであることに気づき、ノートに書く。
- ・1時間を通して、感じたこと、考えたこと、今後の生活に生かしていきたいこと等を振り返る。

## 3. 家庭でも考えよう

この時期の子どもたちは、「褒められたい。」「善いことをしたい。」という思いを強くもっています。ともすると、相手の気持ちよりも褒められたいという自らの思いを優先してしまうこともあります。そこで、「おせっかい」とは異なる、相手の身になって考えた行為である「親切」について考えさせていきたいと思っています。道徳の授業1時間で成果を図ることはできません。学校生活においても、人の役に立ちたいと強く思い係活動や当番の仕事に取り組む子どもたちがたくさんいます。そんな行為一つ一つを大切に評価しつつ、行為自体を褒めるだけでなく、してもらった人の思いにも触れて感謝を伝えていきたいと思っています。ご家庭でも、互いの行為に対する気持ちについて、振り返る機会の一つとしていただけたら幸いです。